

日本愛努民族與台灣原住民族比較認識 國際聯合學習營：經緯與整體報告

日本アイヌ民族と台湾原住民族比較と相識

国際連合学習合宿：経緯と全体のレポート

The International Joint Study Camp on Comparing Ainu and Taiwanese Indigenous Peoples:
Comprehensive Observations and Overall Report

文・圖 | 落合研一（北海道大學愛努・原住民研究中心副教授） 譯者 | 落合研一

文責・図 | 落合研一（北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授） 訳者 | 落合研一

國際聯合學習營的实施経緯

2007年4月に設立された北海道大学アイヌ・先住民研究センター（以下「北大センター」）は、同年10月に国立政治大学原住民族研究中心（以下「政大中心」）と最初の学術交流協定を締結して以降、親交を深めてきた。2008年6月、日本政府がアイヌ民族を先住民族として認めると、北大センターも臺灣における先行事例の調査や視察を本格化させたが、政大中心には、2012年の原住民族文化園區の視察以来、臺灣各所の視察を全面的にサポートしていただいている。

北海道大学では2019年、大学院文学院にアイヌ・先住民学講座が新設された。同講座の教育も担うことになった北大センターは、2022年に海外の大学の先住民族教育を経験できる「国

國際聯合學習營的实施経緯

北海道大學愛努・原住民研究中心（以下簡稱「北大中心」）於2007年4月設立，同年10月與國立政治大學原住民族研究中心（以下簡稱「政大中心」）簽署了第一份學術交流協議，自此建立了深厚的交流關係。2008年6月，日本政府正式承認愛努民族為原住民族之後，北大中心也開始積極推動對台灣相關先行經驗的調查與實地考察，而政大中心自2012年協助安排原住民族文化園區的參訪以來，一直在台灣各地的實地考察中提供了全面的協助。

2019年，北海道大學在人文學院下設立了「愛努・原住民學術課程」，該課程的教學工作也由北大中心承擔。2022年起，北大中心開設了海外實地課程「國際原住民學術



國際聯合學習營2日目の集合写真。教授の皆さま(左から順に)北海道大学山崎幸治主任、政治大学黄季平主任、政治大学林修澈教授、北海道大学落合研一副教授、福岡工業大学楊迪耕副教授（右端）。

國際聯合學習營第二日師生合影。授課教授有（由左至右）北海道大學山崎幸治主任、政治大學黃季平主任、政治大學林修澈教授、北海道大學落合研一副教授、福岡工業大學楊迪耕副教授（右一）。

際先住民学演習」という海外演習科目を設けた。これまでハワイ大学マノア校とルンド大学（スウェーデン）を訪れたが、2024年度は筆者が同科目の担当となったため、政大中心に協力をお願いしたところご快諾いただき、2025年3月4～6日に「日本愛努民族與台灣原住民族比較認識國際聯合學習營」を実施させていただくことができた。北大からはアイヌ・先住民学講座の大学院生6名が参加し、政大からも正規授業の合間を縫って、7～8名の学部生・大学院生が参加してくださった。なお、北大大学院法学研究科で博士号を取得した福岡工業大学の楊迪耕（テイケン）准教授（民法学）に授業の通訳をお引き受けいただいた。

研討會」，讓學生有機會實地接觸海外大學的原住民教育。過去曾前往夏威夷大學馬諾亞校區與瑞典隆德大學參訪，2024年度則由筆者擔任該課程的負責人，因此向政大中心提出合作請求，並獲得同意，最終於2025年3月4至6日在政大中心順利舉辦「日本愛努民族與台灣原住民族比較認識國際聯合學習營」。北大共有6位愛努 原住民學術課程的研究生參與，政大亦有7至8位學士班與研究所的學生，在課程空檔參與了此次活動。此外，本次課程也由於北海道大學法學研究科博士畢業、現任福岡工業大學的楊迪耕副教授（專長民法）擔任課程口譯。



政治大学林修澈教授による原住民の歴史、身分と認定制度についての講義。

政大林修澈教授，講授原住民族歷史、身分、認定制度課程。

3日間の國際聯合學習營の報告

國際聯合學習營では、1日目に臺灣の原住民族、2日目に日本のアイヌ民族に関する授業を実施し、3日目には桃園市復興區の雪霧閣（シエウナウ）集落でフィールドワークを実施した。

1日目の午前は林修澈名誉教授から、原住民族の①歴史、②身分、③認定について、午後は黃季平主任から、原住民族の①言語教育、②文学、③有形・無形文化財について講義していただき、2日目の午前には山崎幸治センター長（文化人類学）が、①オリジナルの民具と現代のアイヌ民族による複製民具の比較展示プロジ



三天的國際聯合學習營內容報告

本次學習營共三天，第一天主題為台灣原住民族，第二天為日本愛努民族，第三天則前往桃園市復興區雪霧閣部落進行實地田野調查。

第一日上午，由林修澈榮譽教授講授原住民族的①歴史、②身分、③認定制度，下午則由黃季平主任介紹①語言教育、②文學發展、③有形與無形文化資產的現況。第二日上午，北大中心主任山崎幸治老師（專長文化人類學）介紹①原住民工藝品與現代愛努族複製前人工藝品的比較展覽項目②近年



政治大学黄季平教授による原住民言語教育、文学の発展と無形文化資産についての講義。

エクト、②アイヌ工芸の近年の動向について、午後は筆者（憲法学）が、①近代国家における先住民族の法的意義、②日本の近代化とアイヌ民族への影響、③アイヌ民族に関連する判決と政策について講義した。

北大の参加者たちは、臺灣の四大族群等の初めての知識をiPadに書き留めたり、原住民族言語教育について、16民族42言語それぞれに12段階もの教科書が編まれ、小学校から高校までの12年間の教育課程において選択必修科目となっている現状に驚いたり、原住民族文学とアイヌ文学の定義をめぐる議論の類似性に気づいた



政大黃季平主任，介紹原住民族語言教育、文學發展及無形文化資產課程。

愛努工藝的發展趨勢；下午則由筆者（專長憲法）講授①近代國家中原住民族的法律意涵、②日本近代化與愛努民族的互動關係、③與愛努民族相關的判決與政策。

北大的學生們初次接觸台灣四大族群等知識，紛紛

用iPad記錄下筆記；他們對於台灣原住民族語言教育中，總計16族42語別，每語別有12階（冊），並納入十二年國教的部定必修課程的制度感到相當驚訝；也觀察到原住民族文學與愛努文學在定義上的討論，有著許多相似性—可說是在認識台日異同的同時，更加深化了對原住民族與愛努民族的理解。



北海道大学アイヌ先住民研究センター山崎幸治主任によるアイヌ先住民族の紹介、博物館の工芸品とその発展傾向についての講義。

りと、まさに臺灣と日本の異同を認識しながら、原住民族やアイヌ民族に関する理解を深められたようである。

3日目に訪れた雪霧間集落では、タイヤル族のご家族に心からのおもてなし

をいただいた。ミカン栽培という現代的生業と伝統的狩猟に関する説明や、果樹園で挽いだミカンに少し塩を加えて炉の周りで炙るという現代的食材と伝統的調理を融合させた文化体験等の趣向を凝らしたプログラムは、今後の観光地化に向けた試行段階とのことだったが、満足度が高く、日本における様々な取組にとっても大



北海道大学愛努原住民研究中心山崎幸治主任，介紹愛努原住民族與博物館的工藝品及其發展趨勢課程。

第三日前往雪霧間部落，泰雅族的家庭以真誠的款待迎接我們。活動設計別具巧思，包括現代生技的柑橘種植與傳統狩獵的介紹、在果園現採柑橘後加鹽再在爐火上炙烤的文化體驗等，展現了將現代食材與傳統料理方式結合的創新嘗試。雖然這些活動目前仍在試辦階段，作為觀光資源的潛力已可窺見，讓參與者收穫豐富，也為日本相關實踐提供了寶貴的參考。值得一提的是，這天由目前正在政大民族學系就讀的日本留學生平井理子同學全程擔任口譯，讓我們能更深入地與當地家庭交流。

最後，感謝黃季平老師與林修澈老師為



國際連合學習合宿雪霧閣部落におけるフィールドワーク。

変参考になるものだった。なおこの日は、日本から政大民族学系に留学している平井理子さんが終始通訳してくださったため、素敵なお家族との交流を深めることができた。

學習營のために万全の準備をしてくださった黄季平老師と林修澈老師、通訳をしてくださった楊迪耕老師と平井理子さん、雪霧閣集落の皆さま、同集落のフィールドワークをアレンジしてくださった陳誼誠老師、學習營の運営をサポートしてくださった政大中心のスタッフ、参加してくださった政大の学生・大学院生の皆さま、本当にありがとうございました。多謝多謝！



北海道大学山崎幸治主任（右端）と参加者学生の雪霧閣部落におけるフィールドワーク。

北海道大學山崎幸治主任（右一）與學生在雪霧閣部落進行實地田野調查。



國際聯合學習營赴雪霧閣部落進行實地田野調查。

學習營做出的萬全準備，感謝楊迪耕老師與平井理子同學擔任翻譯，感謝雪霧閣部落的每一位成員，感謝協助安排田野調查的陳誼誠老師，以及協助規劃本次學習營的政大中心工作人員，還有參與活動的政大學生與研究生們，衷心地說一聲：多謝多謝！◆